

日本天文學會昭和29年秋季年會

プログラム

日時 昭和29年10月2日(土)、3日(日)

場所 仙臺市片平丁 東北大學金屬材料研究所

第1日 10月2日(土) 午前9時より

【午前の部】

	分
1. 神田 茂・齋藤馨兒(横濱國立大): Pons-Gambert 周期彗星(1827 II) について	10
2. 守永 晃・竹本泰二(水路部): 1957年V月6日の水星の太陽面經過の豫報	7
3. 藤波重次・川井誠一(京大・理): 月食に於ける影の境界部の光量分布について	10
4. 大脇直明・關口宣邦(水路部): 月の光行差について	7
5. 須川 力(緯度觀測所): ラジオゾンデ觀測より求めた天文屈折および緯度觀測における differential refraction について	10
6. 佐藤友三(東京天文臺): 掩蔽觀測による位置の決定	7
7. 廣瀬秀雄("): 掩蔽觀測より求めた地球の赤道半徑と月の視差について	10
8. 飯島重孝・河野 昇(東京天文臺): 磁歪時計とその精度について	7
9. 宮地政司(東京天文臺): 時刻の國際的精密比較法	10
10. 宮地政司("): 天文時と分子線振動との比較	10
11. 上田 穰(京大・理): 曆表時について	10

【午後の部】

12. 飯島重孝・岡崎清市(東京天文臺): 三鷹の觀測から求めた地球自轉の年周變化について	10
13. 服部忠彦(緯度觀測所): 振幅の變化するチャンドラー運動の解析	10
14. 關口直甫・松本淳逸(東京天文臺): 東京天文臺における極望遠鏡について	10
15. 虎尾正久・藤井 繁("): PZT の精度	5
16. 虎尾正久・深谷力之助("): PZT によるシンチレーションの觀測	5
17. 後藤 進(緯度觀測所): 天體寫真における乾板傾斜度の測定	10
18. 高木重次("): 星の視位置計算における注意 (V)	10
19. 弓 滋("): 國際緯度變化觀測用星の觀測頻度について	10
20. 高瀬文志郎(東京天文臺): 銀河系内の一般力場について	10
21. 菊池定衛門(東北大・理): 恒星速度の見かけの分布について	10
22. 鑄木政岐(東大・理): 銀河回轉と歳差常數	8
23. 成相秀一(廣島大・理論物理學研究所): 一樣な物質分布からのずれをもつ膨脹宇宙について	10

【懇親會】 第1日講演終了後

第 2 日 10 月 3 日 (日) 午前 9 時より

【午前の部】

	分
24. 古畑正秋・中村 強・田鍋浩義(東京天文臺)：夜光線線の掃天光電観測	10
25. 齋藤國治・秦 茂(東京天文臺)：光電測光に及ぼす地磁氣の影響について	5
26. 野附誠夫・西 惠三()：リオフィルターによる紅炎観測装置について	5
27. 清水一郎・馬場 齊()：コロナ輝線の光電測光方法について (豫報)	5
28. 畑中武夫・末元善三郎・土屋 淳(東京天文臺)：M-region について	10
29. 畑中武夫・鈴木重雅・土屋 淳()：太陽電波バーストの偏波観測装置について	7
30. 赤羽賢司(東京天文臺)：3000 メガサイクルにおける月の輻射の観測	5
31. 末元善三郎()：1952年Ⅱ月の日食観測から求めた彩層の温度	10
32. 宮本正太郎・荒木九臯・川口市郎・難波 收・多田光行(京大・理)：彩層輝線成長曲線について (Ⅱ)	10
33. 末元善三郎(東京天文臺)：干渉計による弱い吸収線の輪廓の測定	10
34. 海野和三郎・河崎公昭(東大・理)：太陽における音波について	8
35. 一柳壽一・稻場文男(東北大・理)：吸収線輪廓による太陽モデル大氣の研究	10
36. 上野季夫(京大・理)：non-coherent 散亂に對する“pseudo-problems”について	7
37. 須田和男(東北大・理)：對流平衡の envelope をもつ星のモデルについて	12
38. 小尾信彌 (東大・教養)： $2p^m ns$ 配位イオンのスペクトルについて	8

【午後の部】

次の二つのシンポジウムが平行に開かれます。(場所は理學部數學教室)

位置天文學シンポジウム

1. 石田五郎 (東大・理) : 連星系の統計について
2. 竹内端夫 (東京天文臺) : 小惑星の要素と軌道改良について

天體物理學シンポジウム

1. 一柳壽一 (東北大・理) : 太陽光球の温度分布について
2. 須田和男 (東北大・理) : 星の内部構造における諸問題
3. 上野季夫 (京大・理) : 吸収線の散亂機構について